

1 自校・市・全国の平均正答率の比較

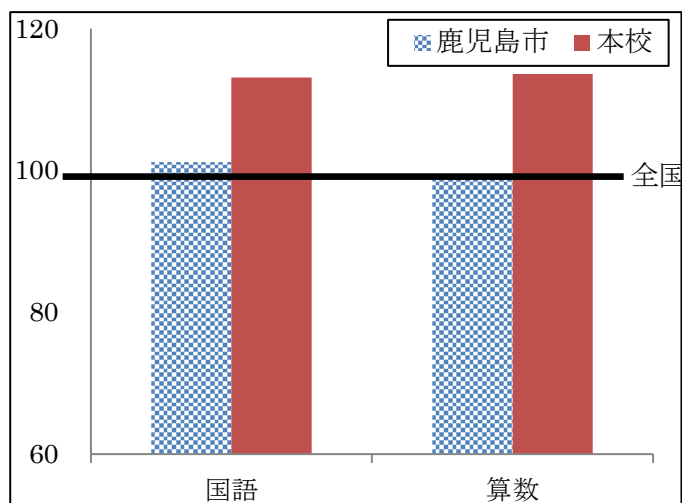
〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉

(1) 全国との比較

国語，算数ともに全国平均を上回っている。

(2) 市との比較

国語，算数ともに鹿児島市平均を上回っている。



2 自校の課題に対する改善策

(1) 国語

ア 教科別の概要

- 平均正答率は，市，全国を大きく上回っている。
- 記述式の問題の正答率が低くなっている。（県・市・自校とも同じ傾向）
- 無答は少なく，問題に粘り強く取り組んでいる様子が見える。

イ 課題

- 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。【5・6年知・技】「くらべて」を送り仮名に注意して正しく使うことができていない。（誤答「比らべて」）
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。【5・6年知・技】自分にとって重要な言葉を整理していることを捉えることはできているが、運動と栄養素の働きとが関係付けられていることを捉えることができていないと考えられる。

ウ 改善策

- 漢字の学習をするときに、送り仮名に注意して練習をさせ、家庭でも見届けをしてもらうよう工夫する。
- 様々な学習方法を取り入れるために、Navima等のデジタルドリルを活用する。
- 前後の文の関係をとらえられるように、意識して授業で取り扱い、読書等でも意識して読めるようにする。

(2) 算数

ア 教科別の概要

- 平均正答率は，市，全国を大きく上回っている。
- 図形に関する問題の正答率が低い傾向にある。
- 記述式の問題の正答率が低くなっている。
- 無回答は少なく，問題に粘り強く取り組んでいる様子が見える。

イ 課題

- ・ () を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる。【第4学年 A 数と計算】
- ・ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。【第5学年 C 変化と関係】
- ・ 正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。【第3学年 B 図形】【第5学年 B 図形】
- ・ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。【第5学年 B 図形】

ウ 改善策

- ・ 2つは記述式の問題であることから、授業の中で説明する活動を取り入れたり、自分の考えをノートに整理したりする時間を多く取り入れ、自分の考えをより豊かにふさわしい言葉で表現できるようにする。
- ・ 図形の領域2つが低い数値なので、操作活動を取り入れるなどして、体験的に学べるように工夫する。

(3) 児童質問紙（全国、県と比較し、前向きな回答が少ない傾向のものを抜粋。）

質問内容	多かった選択
将来の夢や目標をもっていますか。	あてはまらない
友達関係に満足していますか。	している
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。	あまりない
学校の授業以外に、普段（月曜から金曜）、一日どれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。	全く使っていない
国語の勉強は大切だと思いますか。	当てはまる
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	どちらかといえば、当てはまらない
回答時間は十分でしたか。（国語）	やや足りなかった

質問紙の結果から、学校を含めた普段の生活と将来との関係をつかめないことから、現在の学習が役に立つと思えない児童が多いのではないかと推測される。その結果、現在学習していることが役に立つか分からないと感じているのではないかと考えられる。よって、将来と今の学習との関係性を児童自身が繋げていくことができるようにキャリア教育の充実を図っていきたい。